

各ワークショップの概要

●8月5日

記号	講師名	講習テーマ	講習の概要
A	小澤康司	気持ちを理解するには	人が気持ちを伝え、理解し合うために何が必要かを簡単な実験をしながら学んでいきます。実際の体験を通じて、聞き手としての対応が相手の心に働きかける作用についての理解を深め、相手の気持ちを理解し、より良いコミュニケーションを行うために役立てます。子どもとの信頼関係を築くための講座です。
B	三浦邦子	英語嫌いを作らない 小学校英語の授業づくり	新学習指導要領への完全移行を目前に控え、外国語活動の時間が増えることに伴い、「英語嫌いの小学生」が増加するという課題が浮かび上がってきています。なぜ英語嫌いになってしまうのか、どうしたら学習指導要領のねらいである「英語に慣れ親しませながらコミュニケーション力を育むこと」を実現できるのか、実際に「英語に慣れ親しむ」体験を通して学んでいきます。
C	池田 修	その場、その時に 言葉で生徒を指導するための 基礎トレーニング	学校現場では、子どもたちが指導の必要な行動・言動をしたときに、その場ですぐに指導をしなければなりません。子どもの思いもよらない質問・反論に、その場で適切に対応しなければなりません。この指導機会を逃すと子どもたちは「許された」と勝手に判断してしまいます。講習では、こうした対応のための視点を考え、具体的な例題や参加者の事例を通して指導の原則について学びます。
D	村川雅弘/ 田村知子	総合的な学習の カリキュラムづくり	新学習指導要領が求めている改善のポイントを踏まえつつ、授業づくりや単元開発、教材開発を行うワークショップを体験し、学校現場での授業づくりについての研修に活かしていくことができるノウハウを学びます。テーマには「総合的な学習」としてありますが、ここで習得した手法は、各教科において思考力・判断力・表現力の育成や言語の活用、実社会や実生活との関連を意識した授業づくりなどにも活かすことができます。
E	吉山勇樹	段取り力強化プログラム ～行事運営からクラスづくりまで 必要な汎用スキル～	教師の日常は非常に多忙です。しかし、「段取り八分」という言葉があります。この考え方は、学級づくりや体育祭、遠足、学習発表会、入学・卒業式など様々な行事においても当てはまります。今回のワークショップでは、ある行事を企画・実施する想定で、グループワーク形式で段取りの技術を体感し、そのノウハウを学びます。
F	伊藤剛和	日常の授業の中での効果的な ICT活用の授業づくり	学校現場に整備されたコンピュータをはじめとした情報機器を普段の授業の中で活用していくためのノウハウについて体験的に学びます。非常に多忙な先生方の現状の中でもできる、準備の負担などが最小限ですみ、しかも効果的で、すぐに実践できる活用例とそのポイント・秘訣を学ぶことができます。

●8月6日

記号	講師名	講習テーマ	講習の概要
G	三浦邦子	英語嫌いを作らない 小学校英語の授業づくり	新学習指導要領への完全移行を目前に控え、外国語活動の時間が増えることに伴い、「英語嫌いの小学生」が増加するという課題が浮かび上がってきています。なぜ英語嫌いになってしまうのか、どうしたら学習指導要領のねらいである「英語に慣れ親しませながらコミュニケーション力を育むこと」を実現できるのか、実際に「英語に慣れ親しむ」体験を通して学んでいきます。
H	野中信行	2学期からの 学級経営に備える	夏休み明け以降はもっとも学級が荒れやすい時期です。そうした時期の学級運営をスムーズにし、クラスを落ち着かせるために何をすべきかについて考え、話し合い、夏休み明けの学級運営に備えるための講習です。学級のルールやしつけをきちんとしたうえで、子どもとコミュニケーションをとるためのノウハウを学びます。
I	池田 修	その場、その時に 言葉で生徒を指導するための 基礎トレーニング	学校現場では、子どもたちが指導の必要な行動・言動をしたときに、その場ですぐに指導をしなければなりません。子どもの思いもよらない質問・反論に、その場で適切に対応しなければなりません。この指導機会を逃すと子どもたちは「許された」と勝手に判断してしまいます。講習では、こうした対応のための視点を考え、具体的な例題や参加者の事例を通して指導の原則について学びます。
J	榎本竜二	児童・生徒の携帯電話利用の 最新事情	子どもたちの携帯電話やインターネット接続機能を持つ機器の所有率は年々上がり、しかも初めて自分専用の機器を持つ年齢は年々下がっています。今、子どもたちの携帯電話等の利用はどのような状況にあり、どのような問題が生じているのか、最新の状況について学びます(この講習は、講義形式中心となります)。
K	高橋純	わかる・できる 授業づくりのための ICT活用	日常的で気軽なICT活用の代表的な例として、実物投影機とプロジェクタを使って何かを大きく映して見せるという方法があります。このとき、何を映し、教師が何を発問・指示し、どう説明をするとよいのか、グループごとに実際に機器を利用しながら学びます。ICTをテーマにしていますが、ここで学ぶのは、すべての授業に通じる授業づくりのありかたです。
L	上原文	教室の気になる児童への理解と 対応	通常学級の中の気になる児童への対応が学級運営においても非常に重要になってきています。この講習では、そうした子どもたちをより良く理解し適切に対応していくために知っておくべきこと、意識すべきことなどについて学んでいきます(この講習は、講義形式中心となります)。